

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 5 年 6 月 20 日

(あて先) 姫路市長

提出者

住所

姫路市野里948番地

氏名 (法人にあつては名称及び代表者の氏名)

播州調味料株式会社

代表取締役 中川善弘

電話番号

079-224-1761

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	播州調味料株式会社
事業場の所在地	姫路市野里948番地
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

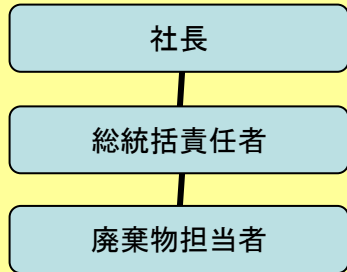
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	しょう油・食用アミノ酸製造業 (0942)
② 事業の規模	37億1200万円
③ 従業員数	111人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙参照

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(令和 4 年度)実績】			
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	汚泥	廃アルカリ
	排出量	2049 t	1335 t	536 t
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず	
	排出量	34 t	1 t	
	産業廃棄物の種類			
	排出量			
(これまでに実施した取組) 発生抑制を考慮して製造工程及び設備を管理する。 特に、動植物性残さは、ろ過工程における水分含量に着目して運転管理を行う。				
②計画	【目 標】			
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	汚泥	廃アルカリ
	排出量	2100 t	1400 t	550 t
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず	ガラスくず
	排出量	35 t	2 t	1 t
	産業廃棄物の種類			
	排出量			
(今後実施する予定の取組) □ 引き続き、発生抑制を考慮して製造工程及び設備を管理する。 特に、動植物性残さは、ろ過工程における水分含量に着目して運転管理を行う。				

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 工程毎に発生したものをそれぞれ分別保管する事を徹底する。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 引き続き、工程毎に発生したものをそれぞれ分別保管する事を徹底する。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度(令和 4 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	該当なし	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) □		
②計画	【目 標】		
	産業廃棄物の種類	該当なし	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) □		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度(令和 4 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	763 t	t
(これまでに実施した取組)			
脱水ろ過における水分含量に注意して運転管理を行う。			
②計画	【目 標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	800 t	t
(今後実施する予定の取組)			
引き続き、脱水ろ過における水分含量に注意して運転管理を行う。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(令和 4 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	該当なし	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目 標】		
	産業廃棄物の種類	該当なし	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度(令和 4 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	汚泥
	全処理委託量	2049 t	572 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	2004 t	572 t
	認定熱回収業者への処理委託量	45 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 発生した産業廃棄物の処理を処理業者に委託する場合、処理内容を確認し、処理業者と適正な委託契約を締結する。 資源化再生利用を促進する。		

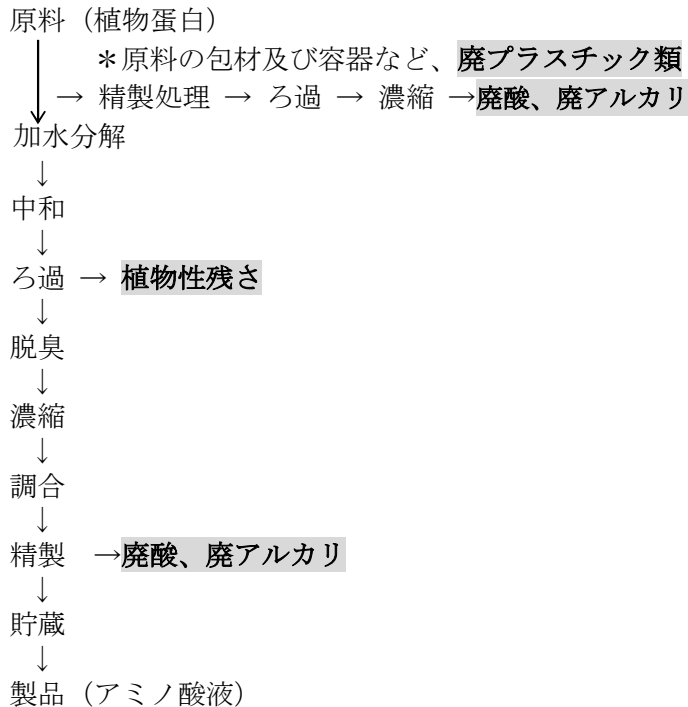
②計画	【目 標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	汚泥
	全処理委託量	2100 t	600 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	2050 t	600 t
	認定熱回収業者への処理委託量	50 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>引き続き、発生した産業廃棄物の処理を処理業者に委託する場合、処理内容を確認し、処理業者と適正な委託契約を締結する。 資源化再生利用を促進する。 優良認定業者の利用を推進する。</p>			
※事務処理欄			

備考

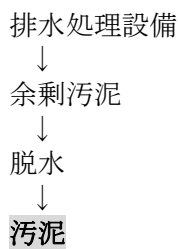
- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

廃棄物発生フローシート

① アミノ酸製造工程



② 排水処理工程



③ 補足説明

当工場から発生する産業廃棄物は、①原料の精製工程から発生する**廃酸、廃アルカリ**、②原料の包材及び容器類である**廃プラスチック類**、③原料を加水分解した後のろ過工程で発生する**植物性残さ**、④製品の精製工程から発生する**廃酸、廃アルカリ**、⑤賞味期限切れ製品（**植物性残さ**）、⑥排水処理工程から発生する**汚泥**、⑦試薬びんなどの**ガラス陶磁器くず**、⑧廃試薬などの**汚泥**、⑨工場建屋などの補修の際発生する**がれき類**、である。

植物性残さ、⑥**汚泥**、は肥料化し資源化再生利用しており、**廃酸、廃アルカリ**は高濃度処理し、賞味期限切れ製品（**植物性残さ**）、は焼却処理している。

廃プラスチック類は燃料などに資源化再生利用している。

ガラス陶磁器くずは破砕し資源化再生利用している。